

令和3年度校内研修計画

1 研修の目的

(1) 目的

児童生徒のもっている力を伸ばし、授業改善を通して教員の指導力を上げる。

(2) 基本方針

①全員で、切磋琢磨して日々の授業改善に努める。

②それぞれの知見や指導技術を共有し、お互いが学ぶ姿勢を大切にする。

2 研修主題

児童生徒が興味・関心をもって取り組む授業づくり

～目標設定と評価に焦点を当てて～

(1) 主題設定の理由

①昨年度までの取組から

当校は平成28年度より、「分かって動ける」授業づくりを研修主題の基盤とし、授業実践を重ね、指導技術向上と児童生徒の成長へとつなげ、成果を上げてきた。昨年度からは新学習指導要領で重要視されている、評価の在り方について盛り込んだ上記の研修主題で研修を開始した。

昨年度の取組で、授業のねらいは何かを考え、学習指導要領で確認する機会となった。さらに、全体の目標を受けて個別の目標が必要であること、個別の目標を元に、環境設定や教師の支援、評価規準を考える必要性を確認できた。しかし、個別の目標を設定し、児童生徒に分かるように提示することは不十分なところもあった。また、評価を次の授業に生かすためのツールとして用意した「振り返りシート」を十分に活用できなかったという反省もあった。

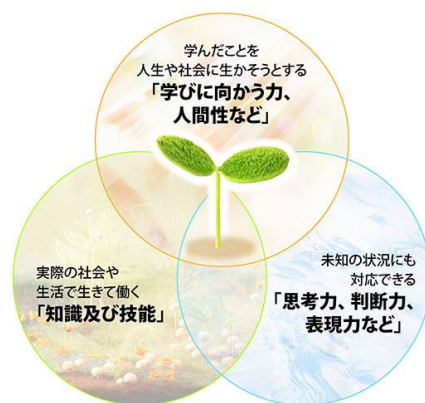
そこで、今年度も「分かって動ける」授業づくりを基盤にしつつ、目標設定と評価について、昨年度不十分だったところを丁寧に行うように研修を進め、児童生徒が興味・関心をもって取り組む授業を実現していきたいと考えた。

②児童生徒の実態から

当校の児童生徒は、それぞれの障害特性から、興味・関心がないものに対して取り組むことが難しい児童生徒が多い。逆に、興味・関心を引き出すことができれば、「やってみたい、もっとやりたい。」と意欲につなげることができる。また、児童生徒の興味・関心を引き出すことで、今までできなかったことにチャレンジしたり、継続して取り組んだりすることが可能になる。そして、チャレンジし、継続して取り組むことにより、できなかったことができるようになっていく。これまでの研修で培ってきた多くの支援方法や支援具、教師間の連携を行うことにより、私たちは児童生徒一人一人の「わかった」「できた」を増やしていきたい。

③新学習指導要領から

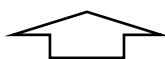
小学部は昨年度から、中学部は今年度から新指導要領の完全実施となった。学習指導要領に基づいた教育課程を編成し、実施、評価し、再編していくカリキュラムマネジメントが欠かせない。また、目指す資質能力に向けて指導内容（何を学ぶか）を検討し、単元（どのように学ぶか）を構成し、「児童生徒一人一人の発達や障害特性を把握した目標設定を行う必要がある。さらに、3つの観点「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性」に沿った評価を適切に行うことが求められている。（「文部科学省HP 教育 学習指導要領」より引用）



そこで、昨年度から副題にある「目標設定」と「評価」に焦点を当てて研修を進めている。今年度は3観点到した目標設定とその個別の目標化、評価をより丁寧に行う。

(2) めざす児童生徒の姿

グランドデザイン 指導の重点より
一人一人の「できる力」を見つけ、伸ばし、生活に生かす



- わかった、できたと感じる（知識・技能）
- どうしたらできるようになるか考える。（思考力、判断力、表現力等）
- やってみたいという好奇心がある。
- もっとやりたい、またやりたいと思う。（興味・関心）

3 研修内容

(1) 授業のPDCAサイクルを意識して、授業改善に努める。

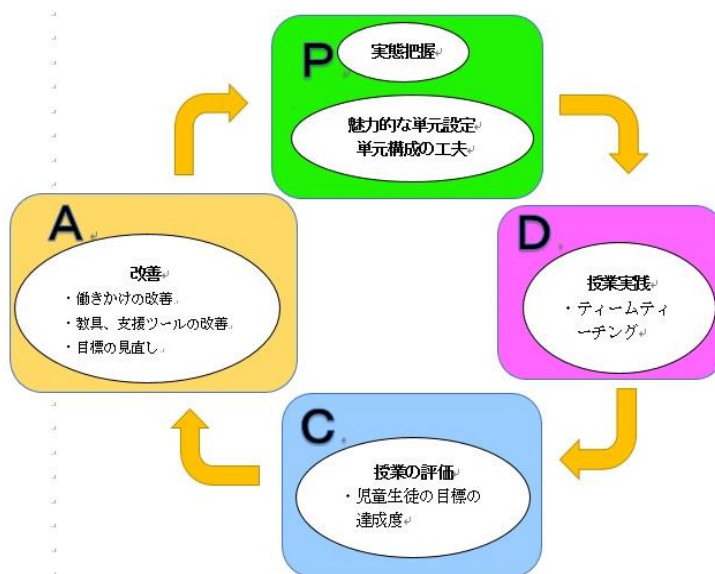
①P（プラン）

学習指導要領の目標、内容、段階を確認し、児童生徒の実態把握を行い、単元の指導計画や単元の構成を工夫し、魅力的な単元を構成する。

②D（ドゥ）

これまでの実践「分かって動ける」で取り組んできた物理的支援や人的支援を行い、(1)のプランで描いた授業を実践する。

授業のPDCAサイクル



③C (チェック)

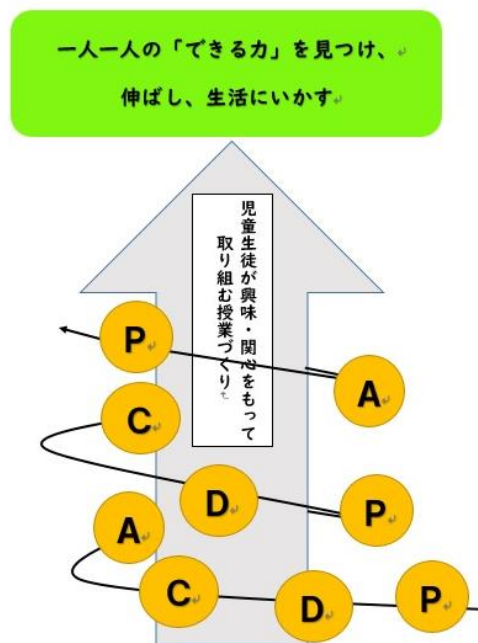
設定した個人の目標に対して評価を行う。評価規準を設定し、どの場面で、どのように評価を行うのか決めておく。

④A (アクション)

目標設定は妥当であったか、手立てや支援はどうであったか、評価の仕方かどうか等、PDCまでの流れを総合的に見直し、改善策を立てる。

⑤PDC Aサイクルの流れ

PDC Aは、1、2回行えばよいのではなく、単元が終わるまで続けていく。また、目標も評価も少しずつ変わり、らせん階段を昇るように、実践を繰り返すことで、単元終了時の目指す姿に近づけていくことになる。



(2) 目標設定について

目標には、単元の全体目標と単元の個別の目標、本時の全体目標、本時の個別の目標がある。単元の全体目標は、学習指導要領の目標と内容、当校の年間指導計画にある目標、さらに、児童生徒の実態を把握した上で設定を行う。単元の全体目標は、単元終了時点で達成できるように授業を構想する。児童生徒の実態が異なるため、個々の単元の目標も必要になる。

単元の目標を達成するために、単元の指導計画と授業のまとめりごとの目標を設定する。児童生徒の実態が異なるため、授業の目標も一人一人異なってくる。本研修で、児童生徒にふさわしい目標が設定できたかどうかを検討していく。

<例>

単元名 ランニング・ウォーキングをしよう (10 時間)

単元の目標 教師と一緒に走ったり、歩いたりすることで、体力を高めることができる。

1～2 (時)	3～9	10						
<p>授業の目標 コースを覚え、自分に合った距離を選ぶ。</p>	<p>授業の目標 自分の目標タイムを考え、目標に向けて練習をする。</p>	<p>授業の目標 どんなところをがんばったか発表会をする。</p>						
<table border="1"> <tr> <td>花子さん 500Mコースを歩く。</td> <td>太郎さん 800Mコースを走る。</td> </tr> </table>	花子さん 500Mコースを歩く。	太郎さん 800Mコースを走る。	<table border="1"> <tr> <td>花子さん 500Mを5分で歩く。</td> <td>太郎さん 800Mを2分で走る。</td> </tr> </table>	花子さん 500Mを5分で歩く。	太郎さん 800Mを2分で走る。	<table border="1"> <tr> <td>花子さん 大股で歩けたことを写真で見せる。</td> <td>太郎さん 腕を大きく振って走ったら、新記録ができたことを話す。</td> </tr> </table>	花子さん 大股で歩けたことを写真で見せる。	太郎さん 腕を大きく振って走ったら、新記録ができたことを話す。
花子さん 500Mコースを歩く。	太郎さん 800Mコースを走る。							
花子さん 500Mを5分で歩く。	太郎さん 800Mを2分で走る。							
花子さん 大股で歩けたことを写真で見せる。	太郎さん 腕を大きく振って走ったら、新記録ができたことを話す。							

(3) 評価について

評価は、児童生徒一人一人の毎時間の評価と単元終了時の評価がある。授業1時間毎、あるいは内容のまとまりの2～3時間毎に行う。評価を行うために、評価規準を設定し、ABCの3段階で評価を行う。評価規準は一人一人異なるため、一人一人について設定する。評価をいつ、どのような方法で行うのか、評価がCの場合やAをはるかに超えていた場合は、目標が児童生徒の実態に合っていたのか、手立てはどうだったか、環境設定、支援ツール、支援方法はどうか等を検討し、次時の授業に向けて改善を図る。この検討と改善が本研修の要となる。

評価についての検討は教員間で行い、児童生徒の学習過程を捉えるときに、設定した評価規準に照らし、複数の教員による評価を行うことで評価の妥当性が向上する。

他にも、授業の振り返り場面で、児童生徒が分かる形でフィードバックするなど、児童生徒主体の学習を考えることも必要で、児童生徒の自己評価を大切にしていく。

<例>

1～2	3～9	10
<p>授業の目標 コースを覚え、自分に合った距離を選ぶ。</p>	<p>授業の目標 自分の目標タイムを考え、目標に向けて練習をする。</p>	<p>授業の目標 どんなところをがんばったか発表会をする。</p>
<p>花子さん 500Mコースを歩く。</p> <p>太郎さん 800Mコースを走る。</p>	<p>花子さん 500Mを5分で歩く。</p> <p>太郎さん 800Mを2分で走る。</p>	<p>花子さん 大股で歩けたことを写真で見せる。</p> <p>太郎さん 腕を大きく振って走ったら、新記録がでたことを話す。</p>
<p>評価規準 A－500Mコースを選ぶ。 C－参加しない。</p>	<p>評価規準 A－500Mを5分以内で歩く。 C－参加しない。</p>	<p>評価規準 A－写真を見せる C－参加しない</p>

<単元終了後の花子さんの評価>

知識・技能	A ・7時間のうち、500M歩いた回数が4回だった。
思考・判断・表現	B ・自分の目標タイムを選べなかった。(C) ・発表会でみんなの前で写真を見せることができた。(A)
主体的に学習に取り組む態度	A ・大股で歩くことを意識して歩こうとしていた。

4 研修方法

(1) 授業プランシートを使用し、適切な目標設定を行う。

PDC AサイクルのP（プラン）に当たるものである。

○児童生徒の実態把握

○単元目標の設定

○単元について

○単元計画について

○学習環境・教具について

○1時間の授業の流れについて

この6つの内容について、事前に情報を収集したり、考えを練ったりして授業を構想し、指導案を作成する。

(2) 授業振り返りシートを使用し、評価を行う。

PDC AサイクルのC（チェック）とA（アクション）に当たるものである。児童生徒1人につき1枚の振り返りシートを作成し、個別の目標の達成状況を評価規準に沿って評価を記入する。授業の目標に対して「できたこと」「できなかったこと」「しなかったこと」、教師の手立てに対する児童生徒の反応、子ども同士の関わり、教材に対する反応、振り返り場面での自己評価やつぶやき等を記録していく。授業終了当日のうちに記録する。

授業終了直後、または授業当日の放課後に、グループの授業者で授業中の様子や評価を共有し、次時への改善策を検討する。それを単元が終了するまで繰り返す。毎時間共有することが望ましいが、最低限単元の内容のまとめりに評価と改善策をグループの授業者同士で共有する。単元の終末までに、単元全体の目標が達成できるように授業改善を行う。

(3) 全体研修について

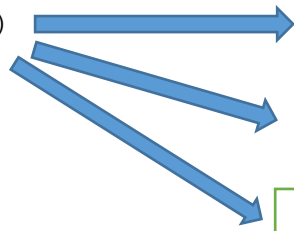
- ①今年度は小学部が秋に授業公開を行う。全教員が参加する研修はその1回とする。指導者を招聘し、研修の方向や授業について指導をしてもらおう。指導案は細案とする。
- ②当日は授業を参観できるように事前に学部内で計画、調整をする。
- ③単元終了後、実践についてA4判1枚に考察をまとめる。

(4) グループ実践について

- ①令和元年度まで年3回行っていた全校での研究授業を昨年度年1回に減らし、その分「一人一実践」の充実を図った。他学部の授業を一人1回以上参観し、放課後の授業の振り返りに参加し、互いの授業力向上に繋がった。今年度は研修主題に即した授業実践をより深めるためにグループでの実践を行う。
- ②各学部で全教員がいずれかのグループに所属できるように編成し、グループで1回以上授業公開をする。他学部のグループ実践の公開授業を1回以上参観する。
- ③6月～11月末日までに行う。時期が集中しないように、学部主事と研推部が中心となって日程を調整し計画的に行う。グループ実践は1週間に原則1つとする。他学部の職員が参観できるよう、事前に日程を公開する。
- ④授業プランシートを使用し、授業を構想する。単元目標及び1時間の授業の目標を「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点から設定する。さらに、児童生徒に合わせて個別の目標と個別の評価規準を設定することを徹底する。授業計画の中に評価の場面を構想する。
- ⑤授業公開終了日の放課後に授業者が集まり、授業の振り返りを行う。そこに管理職1人、学部主事、他学部の授業を参観した職員が参加し、目標設定と評価について気軽に意見交換をする。参加が難しい場合は付箋やメモを渡す。司会は学部主事または研推部が行い、振り返りの時間は30分以内とする。
- ⑥指導案はA4判1枚程度の略案とする。単元終了後、振り返りの時間に出た意見を基に目標設定と評価について考察を加え、研究主任に提出する。

<例>

自分(中学部)



全体研修 (小学部) 授業参観、協議

他学部(高等部)の授業参観、振り返りの時間に参加

自学部のグループ実践授業公開、振り返りの時間に参加

5 研修の年間予定

学期	期 日	内 容	その他
1 学期	4月	・教職員向け図書を紹介	医療的ケア研修会 (4/6)
	5月12日	・校内研修の概要説明	
	6月～7月	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> グループ実践 </div>	
夏季休業	7月～8月	・1学期の年間指導計画の見直し ・指導案検討会	市教協統一部会 南中学区を語り合う会 特別支援教育研修会 (8/20) 校内人権同和教育研修会
2 学期	9月 ～11月	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> グループ実践 </div> ・校内全体研修 小学部 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> グループ実践 </div>	公開講座 (11/18) 人権教育同和教育研究会
	12月	・「グループ実践」終了→考察 ・研修のまとめ作成 ・2学期の年間指導計画の見直し	
3 学期	1月	・「見附市の学校教育」原稿締め切り	
	2月	・研修のまとめ「みとくの教育」完成 ・3学期の年間指導計画の見直し	
	3月	・年間指導計画完成	

<参考文献>

- ・文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター「学習評価の在り方ハンドブック」
- ・新潟県教育庁中越教育事務所「授業改善リーフレット 2021」
- ・岡山県特別支援学校長会 岡山県教育庁特別支援教育課「授業づくりハンドブック」
- ・大分大学附属特別支援学校HP研究資料「授業構想チェックシート」「振り返りシート集」
- ・神山努著「知的障害教育ならではの主体的・対話的で深い学びができる本」学研教育みらい